

総務政策委員会記録

開会年月日	平成 27 年 8 月 26 日
開会時刻	午前 9 時 58 分
閉会時刻	午前 10 時 28 分
出席委員名	◎品川 幸久 ○吉岡 勝裕 野崎 隆太 野口 佳子
	岡田 善行 黒木騎代春 西山 則夫 佐之井久紀
	世古口新吾
	小山 敏 議長
欠席委員名	なし
署名者	野崎 隆太 野口 佳子
担当書記	山口 徹
審査案件	継続調査案件
	・ 防災対策に関する事項
	【消防本部庁舎及び防災センターの整備その後の経過について】
説明者	消防長、消防本部次長、消防本部総務課副参事、消防署長、
	ほか関係参与

審議の経過

品川委員長が開会を宣言し、会議録署名者に野崎委員、野口委員を指名した。直ちに議事に入り、継続調査案件となっている「防災対策に関する事項」に係る「消防本部庁舎及び防災センターの整備その後の経過について」を審査し、引き続き調査を継続することと決定し、委員会を閉会した。

開会 午前 9時58分

◎品川幸久委員長

ただいまから総務政策委員会を開会いたします。

本日の出席者は全員でありますので、会議は成立をしております。

これより会議に入ります。

本日の会議録署名者2名は委員長において野崎委員、野口委員の御兩名を指名します。

本日、御審査いただきます案件は、継続調査となっております、「防災対策に関する事項」であります。

議事の進め方につきましては、委員長に御一任願いたいと思いますが御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

◎品川幸久委員長

御異議なしと認め、そのように取り計らいをさせていただきます。

【消防本部庁舎及び防災センターの整備その後の経過について】

◎品川幸久委員長

それでは、防災対策に関する事項について御審査願います。

「消防本部庁舎及び防災センターの整備その後の経過について」当局から報告を願います。

副参事。

●中芝消防本部総務課副参事

おはようございます。

それでは、御説明申し上げます。

資料1、1ページをごらんください。

消防本部庁舎及び防災センター整備につきましては、1の経過状況のとおり、関係常任委員協議会に御報告申し上げ、御協議いただき、平成27年度末の完成に向けまして、事業を進めているところでございます。

今回はこれまでの経過、今後の予定並びに、防災体験学習室の設計案等につきまして、御報告申し上げます。

2ページをごらんください。

平成26年7月9日に伊勢市消防防災センター新設工事の建設工事、電気設備工事、機械設備工事の請負契約を締結し、工事がスタートいたしました。

また、消防救急デジタル無線システム及び高機能消防指令センターⅡ型総合整備事業につきましても、請負契約を締結いたしました。

防災体験学習室の体験展示施設につきましては、平成27年5月に伊勢市防災体験学習室、展示製作業務プロポーザルを行い、株式会社トータルメディア開発研究所を最適系、提案者に決定、6月に請負契約を締結し平成27年度内の完成を目指し、事業を進めております。

次に、2の建物概要と、附帯設備でございます。

これまでも、御報告させていただいておりますとおり、消防本部防災センターは、鉄筋コンクリート造4階建て、免震構造、車庫は鉄骨造の耐震構造で、用途付帯設備は記載のとおりでございます。

3ページは、1階2階の平面図でございます。

4ページをごらんください。

3階4階の平面図でございます。

防災センターの3階の体験学習室、消防本部4階、通信指令室に設置します。

高機能消防指令センターシステムにつきましては、後ほど御説明いたします。

5 ページをごらんください。

配置図でございます。

消防車両の出動は、図下の国道23号方向と、図左上、松尾観音方向への2方向となります。

交通量の多い国道23号周辺には、出動表示盤、赤色灯を設置し、一般車両に注意を促します。防災センター前駐車場、車庫前面の駐車場は、倉田山公園の施設となり、防災センター来客者など、公園施設利用者の駐車場となります。

附帯設備の自家給油取扱所は、消防庁舎の国道側に配置し、耐震性水槽は車庫西側駐車場に配置しております。

6 ページをごらんください。

建物完成イメージのパス図でございます。

7 ページをごらんください。

消防庁舎4階の通信指令室に設置する高機能消防指令センターシステムⅡ型について、御説明申し上げます。

高機能消防指令センターシステムは119番の受付音声合成による事前指令、災害支援の決定、出動車両の自動編成、音声合成による出動指令等の受信から、事案終了までの指令管制業務を一元的に処理するシステムでございます。

119番を受信します指令台は3隻で、出動編成、地図情報、支援情報の3画面ディスプレイで構成されております。

図の中央3隻が指令台となります。

指令台の後方に、指揮台1席を設置し、119番受信、出動指令を監視、指揮します。

指揮台は指令台と同機能を有しており、119番の受信も可能です。

指令台の前面の総合表示盤は、車両運用、支援情報、多目的情報等を表示するとともに、指令台と連動し地図検索画面、車両動態表示、医療機関情報等を表示することができます。

新システムはGPS機能により、消防車両の現在位置をリアルタイムで把握し、災害現場にいち早く到着できる最適な消防部隊を自動編成することができます。

また、合わせて整備しております、消防救急無線デジタルシステムを同時期に完成いたします。

次に、防災センターと3階、防災体験学習室の体験展示施設案について御説明申し上げます。

8ページ、9ページをあわせてごらんください。

体験学習室は大きく七つのゾーンで構成され、ガイダンスゾーンを中心として、各体験展示ゾーンを配置し、来館者は一目で行きたいゾーンが見渡せるとともに、グループや団体も活用しやすい、開放的で明るい空間としております。

学習室の一角に受付事務所を設け、体験学習室を管理いたします。

映像展示ゾーンは、3面マルチ画面システム、最新の災害映像に伊勢市の地域特性を加えた構成とし、年代別で対応できる映像コンテンツを策定する予定です。

消火体験ゾーンは、映像を活用した模擬消火体験装置による消火器の初期消火が体験できます。

避難体験ゾーンは煙だけでなく、暗闇での避難も体験でき、避難コースを変更することができます。

災害救出ゾーンでは、浸水した車からの脱出、ロープの結び方、搬送法などが体験できます。

ガイダンスゾーンでは、伊勢市全域の空撮地図を床に配置し、手押しのワゴン型装置から地図を覗くことで、各地域の防災情報を確認することができます。

救命講習体験ゾーンでは、映像モニターを活用したAED心肺蘇生法が体験でき、展示体験ゾーンでは、災害発生時に必要な防災グッズを展示します。

この防災体験学習室については、大規模災害時には防災関係機関活動拠点として、利用も考えていることから、一部を除く壁面は、取り外し可能とし、映像展示の三面マルチ画面システムは、情報モニターとしても使用できます。

なお、体験展示施設につきましては、今後さらに内容等を精査調整し、学習効果が図れる施設にしたいと考えております。

また、防災センターの開館日、開館時間、利用方法等の運営につきましては、施設整備にあわせて検討、研究しており、年内には、その運営方法について、御報告させていただく予定としております。

最後の、10ページをごらんください。

今後の予定でございます。

平成27年11月下旬に伊勢市消防防災センター新設工事の建築工事、電気設備工事、及び機械設備工事の完成を予定しております。

完成後は、順次、備品の搬入を行う予定でございます。

防災体験学習室の工事については、新設工事の完成後に開始、平成28年1月下旬の完成を予定しており、その後は、オープンに備えて取り扱い研修を行う予定でございます。

平成28年2月中旬には、関係者の方々への完成披露式を予定しております。

平成28年2月下旬に高機能消防指令センターの119番受信の切りかえを行い、新庁舎からの災害出動を開始し、新庁舎への機能移転を行います。

平成28年4月1日から消防本部防災センターの本格運用を開始いたします。

また、4月初旬に市民向けのオープンイベントを行いたいと考えております。

以上消防本部庁舎及び防災センター整備その後の経過について、御報告申し上げます。

よろしく願いいたします。

◎品川幸久委員長

ただいまの報告に対しまして、御発言はありませんか。

世古口委員。

○世古口新吾委員

二、三点質問させていただきます。

今説明いただきまして、十分理解をとりつもりでございますが、やはり高機能消防指令センターシステムの導入ということで、非常に設備の充実により市民の安心、安全度は

たいへん上昇することと、このように思います。

それはそれとして、残るは人材育成がそれとともに大切ではないか、このように私は思うところでございまして、やはり先般の消防長と話したときに、やはり消防職員は非番の日でも公休の日でも、また、自分の時間を活用しながら、地域の実態調査をやっておるといふことで話を聞かさせていただきました。

非常にこうした日々の努力は、大切やないかなと、このように思います。

その点につきまして、やはり、自分の時間で、そうやって自発的に実態調査をするといふことは、喜ばしいこととございますけども、やはり災害補償の問題とか、手当の問題、その辺については、人材育成していく上で、絡んだ問題として非常に大事ではないのかな、このように重いますが、その辺につきまして、手当の充実、そういったことについてはどのように考えておるのか、お聞かせ願いたい。

◎品川幸久委員長

次長。

●坂口消防本部次長

公休、非番の実態調査につきまして、御説明申し上げます。

勤務中に水利調査等いたしまして、管内の消防水利、消火栓であるとか、防火水槽であるとかそのような位置の把握、それから建物状況の把握等を行っております。

それで、その勤務中に本人が、把握し切れなくて先輩等から指示をいただいたことに関して、通勤途上であるとか、そのようなときに通勤経路の中で把握したり、それから、休日等で、管内で行楽に行くようなときに、建物、例えばジャスコなんかへ入りましたら、ジャスコの消防設備をどうなんかなと、これは職員として業務として行うではなく、職員の個人の意識づけとしてやっておるものでございます。

特に、手当等については考えていない、状況でございます。

以上でございます。

◎品川幸久委員長

世古口委員。

○世古口新吾委員

わかりました。

そしてまた、ところによっては、伊勢がどうのこうのいうことではなくして、ところによってやっぱり地域が、よっては狭隘な道路とか、そういったことで非常に消防自動車の入らないようなところもあろうかと思えますし、また、消防井戸の機能、こういったものについても、やはりチェックされると思えますけど、そこらについて、設備を充実させて、いざ何か火災が発生した場合には、そこへ飛んで行く。しかし井戸を探すのに右往左往しとったり、なかなか、すぐに枯れるような井戸ではいきませんし、その辺についても、この間違いのないようチェックしとると思えますけど、その辺の対応についてちょっとお聞かせ願いたい。

◎品川幸久委員長

消防署長。

●中上消防署長

消防水利の調査でありますけども、毎年、業務の中で、年間2回の調査を行いまして、その維持管理状況について、調査をしております。

井戸に関しましても、渇水期、井戸に関してはですね、12月、1月、2月の渇水期を目標にですね、流水の調査をして管理を図っているところでございます。

以上です。

◎品川幸久委員長

世古口委員。

○世古口新吾委員

よくわかりました。

そして、初っ端に言わせてもらいましたけど、市民の生命財産を守るということで、消防機能が充実さらにアップするという事は、地域としても非常に市民としてもこころよいことだと思いますので、今後ともそういった日々の、努力を怠らないように十分対応していただきたいと思います。

これで終わります。

◎品川幸久委員長

他に御発言はありませんか。

野崎委員。

○野崎隆太委員

一点だけ確認をさせてください。

今回この改修でいろんな形の図面が出てきたというのは、当然理解しとるんですけども、利用の計画、年間どれくらい使いたいとか、この消防の防災体験学習ですか、年間の利用目標であるとか、これからこうこうこういう風に運用をしていきたいっていうのは、書面で、ほんとは今日出てきて欲しかったなと思っとるんですけども、後々出てくるということで理解をしてよろしいですか。

◎品川幸久委員長

消防長。

●竜田消防長

たくさんの計画は練っておるところでございまして、ちょっと今、お示しをしなかったというのは、また年内に改めまして、そのあたりをまとめて公表させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

以上です。

◎品川幸久委員長

野崎委員。

○野崎隆太委員

ありがとうございます。

我々としても、この利用の計画の中で、こんなことしたらどうなのあんなことをしたらどうかというような言える場が、委員それぞれ思ひもあると思ひますんで、ぜひそういう場を1度、資料持ってですね、仮協議できる場ができたらなと思ひてますんで、よろしくお願ひします。

◎品川幸久委員長

他に発言はありませんか。

黒木委員。

○黒木騎代春委員

すいません。当初この体験学習室についてはですね、経費の面とかあるいは、オープン当初としてはですね、利用があるけれども、後々のことを考えてという意味では、慎重な、御発言もお考えもあったと思うんですけども、その辺今回の場合はですね、壁面なんかは、移動可能というようなことで、いろいろ柔軟性があるというようなことは説明では、聞いたんですけど、その辺について、もう少し、詳しく教えてどんな工夫されたんかということとは、教えて欲しいです。

この間、総務の視察でですね、他の自治体の体験学習室なんかも見学をさしていただいたんですけども、その中で機器は効果あるけれども、一定年数が経つと機能がしないと、特にスイッチ類なんか機能がせずに、そのままの状態である、というようなことを見聞きしてきましたので、そのようになっても勿体ないものになると思いますので、その辺についての工夫について、どんなところがあるか、お聞きしたいと思います。

◎品川幸久委員長

消防本部次長。

○坂口消防本部次長

黒木委員のご質問にお答えします。

各防災体験学習室の創意工夫について、御説明申し上げます。

まず、9ページの方をごらんください。

一番右端の映像ゾーンでございますが、これは、通常のシアターでございますと、映画館方式になっておるところでございますが、椅子とテレビモニターっていうふうな形で絵になっております。

それでこのモニターの更新時期っていうのは、このモニターもテレビのモニターと考えていただいて、よいものと考えております。

次に、防災グッズの体験ゾーンでございますが、これは物品の陳列ということで、それほど大きく、更新の必要性もないものと考えております。

次に、救命講習体験ゾーンでございますが、これは現在、伊勢市消防本部でもやっております、救命講習の人形を使用しての講習でございます。

人形のおおむねの耐用年数として、メーカー推奨でございますと、5年ぐらいでございますが、7、8年は、消耗品等を変えることによって、使用することが可能となっております。

ガイダンスゾーンのこのワゴンを覗いての地図でございますが、伊勢市の地形を中心と

したものでございまして、特に詳細なところまでは入れておりませんので、このガイダンスゾーンの中のこのワゴンの中のソフトの交換だけで、対応が可能というふうに聞いております。

それで救出ゾーンの車につきましても、さほどの経費等がかかりませんし、このパネルの中に置かれたものでございます。

避難体験ゾーンのこの煙のところでございますが、主にここで使用するのは、この煙発生剤の薬液等でございます。

次に、消火体験ゾーンでございますが、ほかの防災センターのものでございますと、台所とかですね、そういうふうな状態が常設化されたものがつくってございますが、これも同じくモニターと消火器、訓練用のレーザー用の消火器で対応していくものでございます。

モニターにつきましても、先ほど映像ゾーンで申し上げましたとおり、テレビのモニターと同じような形になるものと考えております。

以上でございます。

◎品川幸久委員長

黒木委員。

○黒木騎代春委員

野崎委員も今後の運用について御質問されましたけども、そのオープンして以降の体制ですね、受け入れ体制、通常でも消防は人為的にですね、なかなか大変な状況の中で、こういうその体験ゾーンに来られた方の受け入れ態勢ですね。

また、新たなそういう人でもいるようになってくると思うんですけども、それについては大丈夫なのか、どうなのか、ちょっと考えをお示してください。

◎品川幸久委員長

消防長。

● 竜田消防長

その防災センターの受け入れる側、対応する人員というようなところでございますけれども、そのところも研究をしております。

それで、なるべく少数な、中ですね、建物施設自体が、消防本部と隣接したところの中でございますので、消防職員の可能な範囲で、講師であるとか、応援であるとかというふうな形を持ちながら、運営をしていきたいと、このように、今、計画を練っておるところでございます。

ですので、また、ちょっとまだ計画の一端ではございますけれど、運営のやり方として、予約を中心にしたりと、というふうなところで進めていければというふうにご考えておるところでございます。

◎ 品川幸久委員長

他に御発言はありませんか。

副委員長。

○ 吉岡勝裕副委員長

少しだけお聞かせいただきたいと思います。

いろいろと質問していただいております防災体験学習室の件ですけれども、私や野口委員からもいろいろとはこれまで行かせていただいた、いろんな防災センターの施設の見学の経験から、もう少しいろいろと考えてやっていただきたいということで、いろいろと練っていただいて、なかなか楽しめる防災体験学習ができるのではないか、というふうに評価をしたいと思っております。

あと、やはりその大きく維持管理経費もそれほど大きな金額もかかるような感じでもありませんし、あとは人件費がどれぐらいかかってくるのか、というふうなところと先ほども説明いただいた防災対策との関係で、広い部屋が欲しいということで、その場合はパ

一ターションを移動しながら、そういう活用もするという事で、本当に工夫しながら考えていただいたことだと思っております。

しいて言うならば、地震体験のところはちょっとないのが、残念かなと思いますけども、いろんな地震体験車等を活用しながらですね、いろんな場面でそういう体験もしていただけたらと思っております。

それで、一つだけ確認させていただきたいのが、まだ検討中だと思いますけども、やはりこの防災体験ということになってくると、やっぱり消防関係が持つよりは、危機管理グループが持つべきかな、というふうに気もいたします。

いろんな防災のボランティアの皆さんであつたりとか、焼津へ行かせていただいたときは、女性の方が受付で、一人囑託さんか臨時さんが受付で、いらっしゃいました。

やはり消防の皆さんが直接かかわるよりも、いろんなそういう防災関係のグループの皆さんにやっていただいたほうが、いいのではないかなというふうな気はいたしますけども、その辺、考え方だけ、まだ少しまとまっておるようであれば、どのような形でもっていくのか、もしお聞かせいただけたらと思います。

◎品川幸久委員長

消防長。

●竜田消防長

委員仰せのとおりですね、消防職員というのは、それ相応の任務を持ちながらのことになりますし、その中で、市民向けにというふうなところで、消防防災に関するところの知識をつけていただきながら、災害を減少化していきたいと、そういうふうな思いもございますので、その中で可能な範囲で、協力態勢でというふうなところでは考えております。

ですので、先ほど黒木委員の方にもお答えしたとおり何ですけれども、運営可能な最小の人員の中で、いろんな協力をしながら、運営をしていきたいと、そのように考えておるところでございます。

なるべく、大きな負担にならないような形で、うまく運営していけるようにというところで計画を立てておるところでございますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

○吉岡勝裕副委員長

ありがとうございます。

◎品川幸久委員長

他に御発言はよろしいですね。

発言はないようですので、報告に対しての質問は終わります。

続いて委員間の自由討議を行います。

御発言はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

◎品川幸久委員長

よろしいですか。

御発言もないようですので、討議を終わります。

継続調査案件となっております「防災対策に関する事項」につきましては引き続き調査を継続していくということで、御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

◎品川幸久委員長

御異議なしと認めます。

本件につきましては、引き続き調査を継続します。

本日、御審査いただきます案件につきましては、以上でございます。

それではこれもちまして、総務政策委員会を閉会をいたします。

閉会 午前10時28分

上記署名する。

平成 年 月 日

委 員 長

委 員

委 員